

転載許可済み

障害者が働ける農園貸します 企業向け 東京の会社が小牧に開設



ビニールハウスで作業に当たる障害者スタッフ＝小牧市下末のわーくはびねす農園あいち小牧で

障害者雇用コンサルティング会社「エスブルーラス」(東京都千代田区)

は、障害者の就労場所として企業に貸し出す農園「わーくはびねす農園あいち小牧」を小牧市下末に開設した。市との協定に基づく施設で、地域の障害者雇用の促進を目指す。

九千八百平方メートルの敷地にビニールハウスを備えた施設で、十九日現在、千五百平方メートルの棟が稼働しており、四社の障害者十三人が就労。十一月までに計二千二百五十平方メートルの棟を追加し、最大で七十五人の障害者に働く場を提供する。

ハウス内では安全に配慮し、やわらかい発泡スチロール製のプランターを並べ、鉄製の農機具がいらぬ軽石を土壌に使用。液体肥料を使い、トマトやコマツナなどさまざまな野菜を栽培できるといふ。

農園は全国に二十一カ所あり、小牧市の施設は県内五例目。来年四月までに民間企業の障害者の法定雇用率が2・2%から2・3%に引き上げられるのを機に需要が高まっている。今年二月十九日に同社と市が協定を結び、市は用地の紹介や農園のPRに協力し、同社は市内を中心に就労を希望する障害者を募り、企業に紹介する役割も担う。

柴田和信農園長(右)は「障害のある人が安心安全に、生き生きと働ける場でありたい。企業には農業や雇用面のノウハウも伝え、地域貢献のお手伝いができれば」と話していた。作業していた大同メタル工業(名古屋市中区)の前野裕稀さん(左)は「小牧市は『周りの人たちが仲良く仕事できて楽しい』と笑顔だった。」(水谷元海)